

金継ぎとは?

お気に入りの器が割れてしまい、悲しい思いをしたことはありませんか？
割れたり欠けたりしても、修復していつまでも使い続けたい。
そんな願いを叶えてくれるのが「金継ぎ」です。
金継ぎは天然の漆を使い、陶磁器などを修復する日本の伝統的な技法です。
割れた器も金継ぎで新たな「美」を纏い、生まれ変わります。



◇お客様のご感想◇



Kさん 女性

お花を生ける水盤が割れ、修復をお願いしました。
とても重いものなので不安でしたが、しっかりと直して頂き、
金継ぎの模様もアクセントになりとても気に入っております。



Sさん 男性

うっかり割ってしまったマグカップを直して頂きました。
思い出の詰まった大事なカップだったので、
金継ぎで元通りになりとても感激しました。



Yさん 女性

茶碗の小さな欠けでしたが、
金継ぎをして頂いたことで、以前よりも増して
とても素敵に生まれ変わったと思います。



割れた陶器の「金継ぎ」修復 承ります

ご相談・修復依頼は下記専用QRコードから
<https://form.run/@kintsugi>



葆光庵
ほりこうあん

下記TEL/FAX/MAILからもお気軽にお問い合わせください



TEL:019-656-7829 FAX:019-903-0437
MAIL: info@japanjoboji.com
[運営]株式会社浄法寺漆産業
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡一丁目9-2



kintsugi

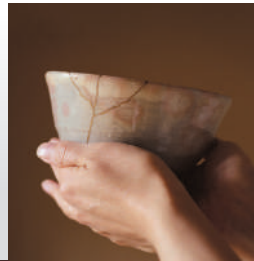
金継ぎ

新たな「美」を纏い、生まれ変わる。

葆光庵
ほりこうあん

熟練の漆職人が地元岩手県産の漆を使って丁寧に修復いたします。

金継ぎは文字通り金で装飾するのが一般的ですが、色漆による仕上げ、プラチナ、銀、錫などの金属による仕上げなど様々あります。蓑光庵ではお客様の要望、お好みをお伺いしながら、漆産地ならではの本格的な金継ぎを行っています。遠方からの修復のご依頼も大歓迎です。まずは、お気軽にお問い合わせください。



2011グッドデザイン賞特別賞の浄法寺漆

金継ぎの基本的な工程(一例)

- 1 [接着] 生漆と小麦粉(又は米粉)を混ぜた麦漆を使い、接着する
- 2 [錆付け] 生漆と砥の粉を混ぜた「錆漆」を塗布する
- 3 [錆研ぎ] 錆漆をヤスリで研ぐ
- 4 [漆塗り] 錆漆に黒漆を塗る
- 5 [装飾] 黒漆の上にベンガラ漆を塗り、固まる前に金粉を蒔く
- 6 [粉固め] 金粉が定着した後、生漆を塗る

金継ぎと漆

漆はウルシの木から採れる天然の素材です。一度硬化すると強い耐久性、断熱性、防腐性を持ち、日本では9,000年前の縄文時代から身近な素材として様々な分野に活用されてきました。その特性が発揮されたのが、金継ぎとも言えます。金との相性も良く、金閣や中尊寺金色堂などの金箔は漆によって接着されています。



国産漆の約7割が岩手県で生産されています。漆の木に専用の道具で傷をつけ、掻き子と呼ばれる職人が滲み出てくる漆液を一滴一滴集めていきます。漆液は10年から15年かけて育てた漆の木からわずか200gしか採れません。採取後は伐採されますので、非常に貴重なものです。現在、国産漆の需要が高まり、漆の木の資源が不足しています。当社では漆の木を植える活動を積極的に行っています。

